

# 鵜川河口干潟で鵜川高校の新カリキュラム「むかわ学Ⅰ」をサポートしました！

治水課、苫小牧河川事務所

鵜川高校は、地域の自然環境や歴史を学び、地域の課題の発見や解決能力を身につけることなどを目的として、平成29年度から学校設定科目として新たに「むかわ学」を導入しています。その一つである「むかわの自然環境」では、鵜川河口干潟をテーマに、河口干潟の保全・再生に関する様々な活動を実施している「ネイチャー研究会in むかわ」の小山内恵子会長が講師をしています。

平成29年7月12日(水)は、6月19日の講義に続いて巡検(フィールドワーク)が行われました。室蘭開発建設部では、河川協力団体「ネイチャー研究会in むかわ」とともに、渡り鳥の餌となる干潟にすむゴカイ調査と水質調査のサポートを行いました。鵜川高校1年生49人は、人工干潟で泥まみれになりながらゴカイを探したり、水質パックテストで人工干潟の水質の確認を行うなど、現地で体験し干潟の重要性などを学びました。今後もさらに学びを深めていくとのことです。

室蘭開発建設部は、地域を支える子供たちに向けて、地域の財産である自然豊かな鵜川を理解し大切にすることや、川を守る活動の大切さなどを伝え、理解を深めてもらうことで、地域づくりの人材育成につながるよう取り組んでいます。



室蘭開発建設部職員の話をも熱心に聞く生徒たち

「季節や気候などで変化する自然環境の中で、私たちは暮らし、生き物たちが鵜川にたくさん生息しています！」

